

牧師室から(2022.8.14)

8月はどのような時よりも、平和の大事さを噛みしめる時期である。聖書で「平和」というと、「シャローム」が思い浮かぶが、それはイスラエル人の日常の挨拶である。「シャローム」というと、平和、平安と思う人が多いが、「シャローム」はそれ以外にも何十の意味があるという。創世記15章16節「…アモリ人の罪が極みに達しないからである」というところの達するという言葉と、出エジプト記21章36節と22章12節での償うという言葉も、このシャロームから来ている。つまり、シャロームには充分、充満である、賠償、保障の意味も含んでいるのである。

病気を患っている人へのシャロームという挨拶は快復を意味し、試練の中にいる人への挨拶は、平安と神様の御導き、祝福を意味する。戦場に行く人へのシャロームは神様の御守りと勝利を指している。その他に、回復、完成、成就、秩序など、完全で、調和した状態を表す言葉でもある。しかし、それは静的な状態ではなく、動的な関係性を含んでいる。神様との関係、そして、隣人との関係性が含まれた言葉である。

レビ記7章11節の和解の献げ物(peace-offering)での、和解にはシャロームの意味がある。神様との関係がシャロームであるからこそ、人間同士の和解(シャローム)があるということから、シャロームという挨拶は、神様が共におられ、あなたを祝福してくださるように、という呼びかけでもある。ちなみに、ソロモン王の名前もシャロームという言葉から来ている。

エペソの信徒への手紙2章14節には、「実に、キリストは私たちの平和であります…」と書かれている。私たちのシャローム、それ自体が、主イエス・キリストであることを示しているのだ。だから、「シャローム」という挨拶は「主が共におられますように」という祈りの言葉なのである。

インマヌエルの主がおられるからこそ、私たちの人生には、真の解放、自由、和解、救いというシャロームが与えられるのである。

戦争、自然災害、疫病、様々な試練の中にいる私たちに、シャロームの主が共におられることを感謝しつつ、希望を持って歩んでいきましょう。

(鈴木善姫牧師)